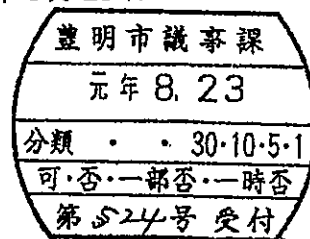


<参考>様式第2号

令和元年8月23日

豊明市議会議長 殿



行政等視察報告書

議員名 三浦 桂司

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和元年 7月30日	岡山県 高梁市	別紙資料
令和元年 7月31日	広島県 呉市	

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

2019 視察報告書

2019 年 会派清和 行政視察レポート

三浦 桂司

日 時: 令和元年 7 月 30 日(火曜日)～31 日(水曜日)

場 所: 7 月 30 日 岡山県 高梁市

7 月 31 日 広島県 呉市



7 月 30 日(火曜日)岡山県高梁市 市役所

豪雨復興計画について

視察目的

高梁市は、2018 年発生した西日本豪雨のさい、甚大な被害が出た見舞われた地域であり河川強化、避難対策など防災計画を策定した。

豊明市も 2000 年に一晩で 500 mm 以上という東海豪雨に襲われて、私の住む地域(阿野・大脇・中島・中川川辺地域)などの一部低地は、水没した地域で、一部家庭は床上浸水にもなった。今は線状降水帯の多発で、ゲリラ豪雨は、いつ、どのタイミングで、どこの地域で発生してもおかしくない。

低地に、水位計も必要かと防災協定を締結している島根県雲南市にポテカという水位計を設置しているので、豊明市も低地に設置する計画はないかという提案をしている。

家庭にできること、地域にできること、地方行政は何をすべきか、国に対してどのような要望をしていけばいいのか。

被害が出たらどうなるのか、被害にあう前の対策についての研修だった。

高梁市の豪雨発生当時の対応

2018 年 7 月 5 日から雨が続いた段階から避難勧告を出し、町内会長、民生委員が誘導して 151 名が避難した。情報伝達として、防災ラジオや緊急メールを出したが、雨が急激だったためか市民の人に危機感が伝わらなかった。



発生後の取り組み

豪雨で一部が水浸しになって 5200 世帯が床下浸水、2200 世帯が、全半壊と被害が出た。全壊世帯は 136 か所、1879 世帯が被害にあった。

避難所は 29 か所開設、2500 人受け入れが 8 月 14 まで続いた。

長期的受け入れのノウハウがなかったので、混乱した部分が出た。

市役所内部で復興対策本部を設置し、地域への説明会、現状の取り組みなどを市長自らが出向いて、被災された市民に説明した。

その他の事業

- ・ 自主防災組織への支援、700 万円
 - ・ 浸水エリアマップ、5月に全戸配布、120 万円
 - ・ 内水排除対策費用、可搬式ポンプ 2 台購入
 - ・ 河川監視カメラ高梁川・成羽川に 7 台設置、4700 万円
 - ・ ケーブルテレビネットワーク耐災害性強化事業、1 億 3 千万
 - ・ 防災ラジオ、9200 万円
 - ・ 避難所整備事業、6000 万円
- 太陽光パネル複合施設避難所建設等々

課題

豪雨だけでなく、地震、自然災害はどのタイミングで発生してもおかしくない。

災害から避難してきた被災者に、避難所において、食事・風呂・就寝環境などの課題が付きまとう。

高齢者などに非常食が朝昼晩 3 食続くと辛いという声があり、炊き出しをしようと思ったが食品衛生の観点から保健所からストップがかかったとのことである。自宅を流されたり、家族に被害が及んだケースなど、持っていき場のない怒りが、職員に向かうケースも少なくな

い。

高梁市では、被害が少なかった市外から弁当をお願いした。

断水が続いたので、ペットボトルで対応したが、風呂には毎日入れなかった。

ペット避難は、避難所の部屋数が限られているので、小型犬は車中で世話を大型犬などは断ったケースが多い。

地域とのつながりが希薄であると、被害は拡大するとの生の声が聞けた



普段は穏やかな高梁川

7月31日日(水曜日) 広島県 呉市 市役所
国民健康保険の医療費適正化について

視察目的

豊明には 1500 床の病床数を誇る藤田医科大学病院があり、また他の病院も充実しているので、医療費が膨らみがちな要素がある。かつては 60 歳以上の人が住みやすいまち日本一になったこともある。

病院に通うのは、勤労者世帯・若い現役世代よりも、国民健康保険を利用している前期高齢者の人、後期高齢者制度を利用している 75 歳以上の人が多く、豊明市の高齢化率も 25% を超えた。

豊かな食生活が、食品ロスやメタボ、ゴミ問題が社会問題化している。私は「メタボ対策」について質問した。

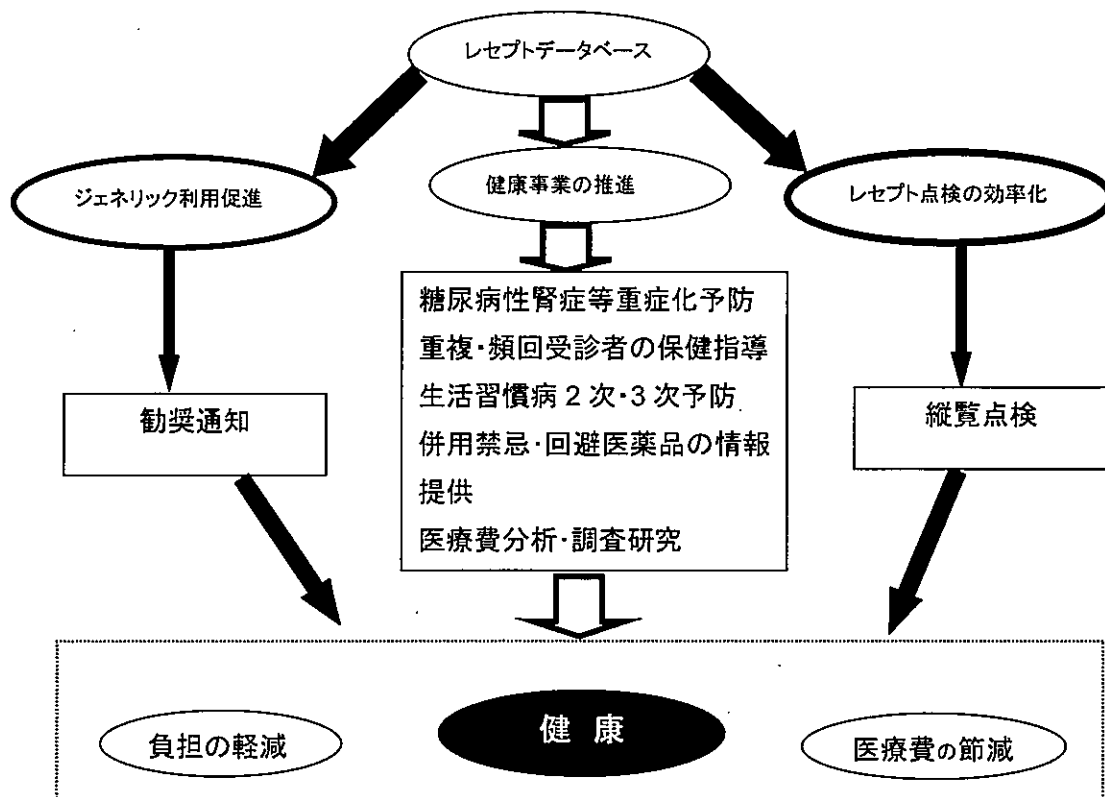


呉市の対策

人口 223,685 人のうち国保加入者は 42,842 名と人口の 19% を占めている。(29 年度決算ベース)400 床以上の病院が 3 機関あり、一人当たりの医療費が 45 万 9 千円と広島県の 1,13 倍、国の 1,28 倍ある。国保の特別会計 294 億強のうち、前期高齢者交付金が 102 億 7 千万と 35% を占めている。

第 4 次長期総合計画では、健康寿命の延伸と国民健康保険の健全運営について、生活習慣病予防を柱とした保険事業の推進を目標とした。

1、レセプトのデータベース化を導入。



医療費適正化についての取り組み

- 1、レセプト点検の充実・効率化
- 2、レセプト情報活用による医療費等の分析
- 3、ジェネリック医薬品の使用促進通知
- 4、訪問指導・重症化予防など各種保険事業

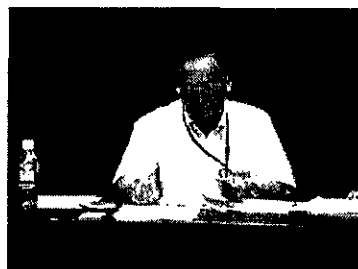
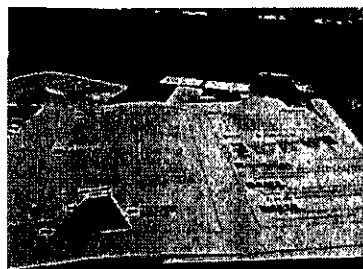


糖尿病腎症重症化予防事業について、対象者は何名で、必要経費はいくら、事業を行なうにあたっての課題、糖尿病性腎症以外の理由での透析数、国民健康保険の伸びについて」事前に質問事項を提出しておきました。

呉市の計画・目標(健康寿命の延伸)

生活習慣病予防を柱とした保健事業の推進 データベース化導入まで

- ・平成 17 年:レセプトのデータベース化を検討したがコストが高いため断念
- ・平成 18 年:19 年度を目標に始動、委託方式を検討
- ・平成 19 年:予算ゼロ査定、運営協議会でシステム導入について説明
- ・平成 20 年:システム導入満額内示、予算報道にプレスしたところ新聞報道
運営協議会でシステム説明、第 1 回ジェネリック医薬品促進通知
- ・平成 21 年:ジェネリック医薬品希望カードを配布



健康管理増進システムと特定検診データの突合

- ◎レセプトデータを分析して、重症化予防プログラム対象者を抽出
受信医療機関を介して、重症化予防プログラムへの参加を勧奨
- ◎特定検診対象者のうち、健康診査未受診かつ医療機関未受診者を抽出
電話などによる、特定検診受診勧奨をする
- ◎検診受診者のうち、要医療者を対象に、検診後病院らからず放置している人を抽出
- ◎訪問指導で、早期医療機関への受診と、重症化予防プログラムへの参加を勧奨

レセプト点検の充実・効率化

- 1、レセプト情報の活用による医療費等の分析
- 2、ジェネリック医薬品の使用促進通知
- 3、訪問指導・重症化予防など各種保険事業

※ジェネリック医薬品への切り替えで保険事業の実施の財源確保
医療費の適正化、保険料の引き上げ抑制

訪問指導・重症化予防など各種保険事業として

- ・医療費の伸びが大きく、医療費が高額な疾病への対策
- ・糖尿病性腎症が重症化して、人工透析に移行すれば、一人当たりの平均医療費は年/400万。糖尿病の危険因子、肝機能障害が進行している人を早期に把握して、生活習慣病の危険因子の重複化、疾病の重症化の予防
- ・重複・頻回受診者、生活習慣病放置者への適正受診に向けた訪問指導
- ・特定検診データレセプト情報参照による受診奨励
レセプト分析により、各事業のPDCAサイクルが可能となる

ジェネリック使用促進通知による費用対効果

平成 29 年度実績

ジェネリックの使用促進通知額 郵便料(隔月約 2500 通)99 万円

効果額(医療費減額)2 億 8 千 5 百 4 万円

累積薬剤費削減額 16 億 3 千 3 百 11 万 9 千円

※送付については、短期処方では省いている。院内処方では送らず。ジェネリックしか使わない病院もある

特定検診・特定保健指導

特定検診率が悪い、特定保健指導は市内 7 医療機関、市役所など 9 か所の公共施設、また呉市保健士による訪問

受診勧奨者フォロー事業

特定検診を受診した結果、病院への受診が必要であるにもかかわらず病院へ受診していないもの(特定保健指導対象者は除く)に対して、医療機関への受診勧奨を行ない、生活習慣病の早期対応、重症化予防を図る

重複受診者リスト、頻回受診者リストの訪問の効果

28 年度、3 つ以上の病院へ通っている。月に 15 回以上通っている受診者 143 名をリストアップ、54 人に指導、削減達成者 25 名。医療費削減額 339 万円

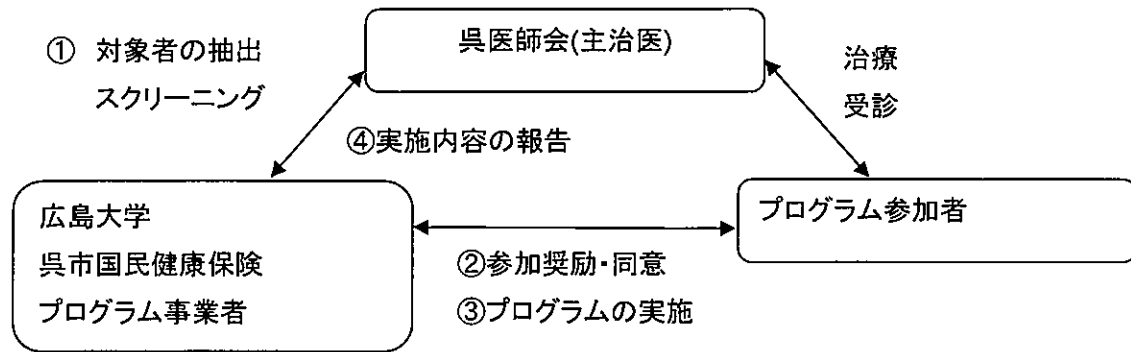
重複服薬履歴表、併用禁忌・回避医薬品情報提供事業

お薬手帳、飲み合わせの悪い薬を飲んでいる受診者の指導

糖尿病性腎症等重症化予防事業

糖尿病の4割が腎症

ステージに応じたアプローチをして、糖尿病性腎症等重症化予防プログラムを作成
第1期から第5期まで分類して、対応策を変えている。



食事改善と運動を心がける

食事:かけ醤油をつけ醤油へ、野菜から食べる、間食をやめる、1日1食は低たんぱく、ミカンの量を減らす

運動:バス停は1つ前で降りて歩く、買い物は徒歩でいく、ウォーキングをする

国民、健康保険利用者の人工透析の推移

平成22年ピークの156名から、平成29年は96名へ減少

総合的な健康づくり、日常生活の中の何気ないことから始めることで、糖尿病を阻止、しいては糖尿病性腎症等重症につながらないよう、啓発をしている。